

南あわじ市 平成 19 年度 事務事業評価シート  新規  継続  
( 団 体 用 )

## I 基本事項

整理番号 465

事業名	健康大学講座負担金		予算科目	会計	一般会計・1
担当部課名	健康福祉部	健康課		款	衛生費・4款
電 話	0799 - 44 - 3004			項	保健衛生費・1項
事業分類	<input type="checkbox"/> 義務的(法定)事務	法的根拠 (法令、条例、要綱等)		目	保健衛生総務費・1目
	<input checked="" type="checkbox"/> 任意的(自治)事務		南あわじ市健康づくりセミナー要項		
南あわじ市総合計画 施策体系	まちづくりの柱	安らぎづくり_元気あふれ_住んで快適なまちづくり_			
	まちづくりの目標	延ばせ健康寿命_【健康】			
	施策目標	健康増進や予防などに関する意識を高め、信頼性の高い医療・ 救急医療が受けられる仕組みを整える			

## II Plan&amp;Do (計画・事業内容、団体内容、投入資源)

事務概要	目的	対 象(誰を・どのような状況の人を、構成員内訳)			
		南あわじ市在住の18歳以上の受講申込者			構成人数(人)
		70			
		活動目的(どのような状態になってもらいたいのか、事業を実施する「本来の目的」を記入)			
		市民の健康に対する強い要望にこたえ、健康教育の普及向上を図るとともに、市民が自ら健康に関する知識を習得し、理解を深め、あわせて健康な生活態度をとるよう育成し、もって市民の健康、医療、並びに公衆衛生全般に効果の及ぶことを期して開講している。			
	実施内容	(主な事業、活動内容等)			
	5月から翌年2月まで、毎月第3木曜日の毎月1回(8月のみ2回)年間11回講座を開催している。1日3時間(60分×3講座)を行う。また、修了式には講師を招いて本講座の卒業生にも学習の場を提供している。講座内容は、ケーブルテレビにて取材し放映している。(講師の承諾を得られる場合に限る)				
	受講生が、全開講日数(修了式・特別講演除く)の8割以上を出席した場合、兵庫県知事並びに兵庫県医師会長の連名による修了証書を与える。出席日数が6割以上のものには、南あわじ市長並びに南あわじ市医師会長の連名による修了証書を与える。さらに、全開講日に出席した場合、皆勤賞として記念品を与える。				
	平成18年度、19年度の実績は次のとおり				
	・受講生：18年度 79名 19年度 66名				
	・述べ出席者数：18年度 512名 19年度 532名				
	・特別講演				
	18年度『きれい社会の落とし穴』藤田 紘一郎 氏(東京医科歯科大学名誉教授)				
	19年度『思いっきり笑うと元気になれます』林家 染二 氏(落語家)				
団体の概要	昭和54年6月に三原郡医師会(現在は、南あわじ市医師会)が三原郡健康大学講座を開講した。医師会の会員が講師となり南あわじ市歯科医師会並びに関係機関の協力を得て、地域住民の健康教育を行っており開講以来毎年実施している。				
	講座の運営は、運営委員会を年2回実施し、決定している。				
	活動目的と内容は、上記内容である				
	事務局の所在 (直接事務執行部署)	<input type="checkbox"/> 補助団体	<input checked="" type="checkbox"/> 市役所	<input checked="" type="checkbox"/> 市単位 (健康課)	
				<input type="checkbox"/> 旧町単位 ( )	
				<input type="checkbox"/> 旧村単位 ( )	
補助金算出根拠	負担金は旧4町の負担金の合計額である。				
	・旧緑町 50,000円				
	・旧西淡町・旧三原町・旧南淡町 80,000円 合計290,000円				
補助交付期間	<input type="checkbox"/> 平成	年度	~	平成	
				年度 <input checked="" type="checkbox"/> 設定なし	
合併協議事務調整内容	(合併前における事業実施団体と合併時における事務調整経緯)				
	<input checked="" type="checkbox"/> 旧緑町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧西淡町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧三原町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧南淡町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧広域事務組合 <input type="checkbox"/> 新市から				
	補助金は旧4町から、事務は広域事務組合から引き継ぐ。 旧緑町50,000円、旧西淡町80,000円、旧三原町80,000円、旧南淡町80,000円を負担していた。 合併後は健康大学講座負担金としてそれらの合計額290,000円を負担している。				

		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
資源配分 インパクト	直接事務費 (千円)	290	290	290	290
	南あわじ市健康大学講座負担金	290	290	290	290
	事務局事務費(市が事務局の場合)	0	0	0	0
	財源 (千円)				
	国				
	県				
	起債				
	その他				
	一般財源[A]	290	290	290	290
	人件費(正規職員)[B] (千円)	399	389	391	391
	平均人件費(1日当り)	30.7	29.9	30.1	30.1
	事業量1(事業に要した日数)	13	13	13	13
	事業量2(事業に要した人数)	1	1	1	1
	年間経費([A]+[B])	689	679	681	681
「構成人数」一人当り経費 (千円)	9.8	9.7	9.7	9.7	
受益者人数(70)一人当り経費(千円)	9.8	9.7	9.7	9.7	
経費に関する 補足説明	健康大学講座では、市の負担金のほか、南あわじ市医師会補助金、受講生会費、雑収入がある。				

### Ⅲ Check (事業の自己評価・一次評価)

費用対効果	(費用対効果の分析、問題点・課題などを記入。) 市民一人ひとりが健康に関する正しい知識を身につけ、健康的な生活を送ることはまさに病気の1次予防である。疾病予防により、将来的には医療費の削減につながる。公費を有効に使うためには、受講生を増やすことやケーブルテレビの取材協力を得て多くの市民に健康に関する正しい知識を普及させることが今後の課題である。決算状況を見ると毎年、繰越金が発生している(平成17年度:462,734円、平成18年度:706,314円)。健康大学講座は来年度(平成20年度)に30周年をむかえ記念事業を行う予定があるので、今はその費用を積み立てをしている。	自己評価 (5点評価)
		3
必要性	公共性の高低 <input type="checkbox"/> 高 <input checked="" type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低 (公共性、市民ニーズ、緊急性などを分析、問題点・課題などを記入。) 健康とは、何事にも代えがたい最大の望みである。その要望に答え、健康教育の普及向上を図るとともに最終的には健康な生活を送ることを期待している。市民一人ひとりがいつまでも健康で豊かな生活を送るためにも健康教育の場を提供することは必要である。	自己評価 (5点評価)
		3
総合評価	自己評価をふまえた現状分析 市民の健康に関する関心は、増す一方である。その要望に答え、健康教育の場を提供することは必要である。 また、病気になってから治療するのは、身体的・精神的な負担はもちろんのこと、経済的な負担も大きい。健康に関する正しい知識を習得し、いつまでも健康でいることは豊かな人生を送るうえで欠かすことが出来ない。	<p style="text-align: center;">評価グラフ</p> <p style="text-align: center;">費用対効果      必要性</p>

## IV Action&amp;Plan (改善・改革の内容及び次年度以降の計画)

	平成20年度にできる改善・改革	平成21年度以降にできる中期的な改善・改革
今後の方向性とその理由	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事務局変更 <input type="checkbox"/> 手法見直し <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事務局変更 <input type="checkbox"/> 手法見直し <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減
	<p>今後も南あわじ市から公費を負担し、事務をしていくことで健康教育に貢献していく。            多くの市民に健康教育を行うという本講座の趣旨から、ケーブルテレビでの放映も積極的に実施していく。</p>	同左
(現状維持以外の改善方法)		
改善によって期待される効果		
(現状維持の場合も記入)	<b>仮に</b> 補助金、交付金を廃止した場合に予測される影響(プラス面、マイナス面) <b>【プラス面】</b> ・交付負担の減少  <b>【マイナス面】</b> ・特になし	